

合言葉は3つの“つ”！「つどう・つながる・つづける」～自然を生かし、人をつなぎ、自立発展し続けるまち菊池～

熊本県菊池市（2021年度選定）

1. 地域の特徴と課題及び目標	【地域特性】 人口：2000年:52,636人 ⇒ 2020年:47,888人 ⇒ 2030年(推計):約41,500人 農業：米、畜産等の農業産出額全国13位（畜産(肉用牛)：全国7位）(2022年度) 観光：菊池一族をはじめとした歴史・文化、菊池溪谷、菊池温泉...etc 【主な課題】 地域資源の有効活用、カーボンニュートラルの実現に向けた取組の推進 【目標】 里山資源を生かし、ヒトやモノがつながり、自立発展し続けるまち	2. 関連するゴール 
3. 取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)	里山の恵みに人々が集い、農家・ITベンチャー・学術機関などの様々な人同士が繋がることを通じて、カーボンニュートラルや地域の活性化を実現する。そこに新たな地方ビジネスや多分野の人の交流が生まれ、さらにこれが相互に循環することで、自立的なまちとしての発展を続ける。特に注力する先導的取組としては、テレワーカーを新規ターゲットとし、快適なオフィス環境と菊池ならではのコト消費を提供することで誘引を図り、菊池ファンとして定着させ、地域資源との相互作用による好循環を創出することで、持続可能な魅力あふれる“Saiko！”のまちを実現する。	
4. 自治体SDGs推進等に向けた取組 ○菊池ファン（関係人口）の拡大 本市に関心のある方等が会員登録できる「菊池ファンクラブ」や南北朝・菊池一族の文化資源を有する福岡県の自治体と連携した「南北朝・菊池一族歴史街道推進協議会」の取組を通じて、関係人口の拡大に取り組んだ。 ○健康促進型のコト消費の提供 市農産物である菊芋等の消費拡大を通じた健康づくりや地域資源を活かした健康プログラムの造成等に取り組んだ。 ○里山資源の“彩興”による安心・安全・明るい景観づくり 企業等と連携した植樹活動による景観づくりや市独自の環境に配慮した生産基準（菊池基準）の普及促進に取り組んだ。	6. 取組成果 ○菊池ファン（関係人口）の拡大 市内団体等と連携した「全国のきくちさんサミット」や福岡県の自治体と連携した「南北朝・菊池一族歴史街道スタンプラリー」等を実施し、令和5年度末時点で菊池ファンクラブの会員数は6,062人である。 ○健康促進型のコト消費の提供 健康を切り口とした観光体験プログラムを関係団体と連携して造成し、令和4年6月に第三者認証制度である「ヘルスツーリズム認証制度」を取得。令和5年度に実施した「菊池溪谷散策ツアー」には32名の参加があり、市外からの誘客につながった。 ○里山資源の“彩興”による安心・安全・明るい景観づくり 企業や地域住民との協働による植樹活動を行った。令和5年度末時点でのこれまでの累計の植樹本数は19,641本である。	
5. 取組推進の工夫 ○地域団体や連携協定企業等と連携しながら取組を進めている。 加えて、連携協定企業・大学等と市内団体との交流会を開催し、多様なステークホルダーとの連携強化を図った。 ○行政体内部の効果的な取組の推進のため、令和4年度より横断的なSDGsの推進等を行う部署「SDGs推進室」を新たに設置した。	7. 今後の展開策 ○連携協定企業・大学等と市内団体との交流会を継続的に開催し、新たな地域活性化の手法やビジネスチャンスの発掘、SDGsの推進等につなげる。 ○連携協定企業や市内団体、教育機関等、多様なステークホルダーと連携しながら、SDGsに関するセミナーやイベント等を開催し、市民等へのSDGsの更なる普及啓発に取り組む。	
8. 他地域への展開状況 （普及効果）	現時点で他地域への展開等はないが、熊本連携中枢都市圏や県内のSDGs未来都市選定自治体等と情報共有を行いながら、他地域への展開を図る。	

SDGs未来都市等進捗評価シート

2021年度選定

熊本県菊池市

2024年9月

SDGs未来都市計画名

菊池市SDGs未来都市計画
～自然を生き、人をつなぎ、自立発展し続けるまち菊池～

特に注力する先導的取組

「さあ、行こう！」菊池“Saiko！”プロジェクト
～きくちまるごと快適オフィス化からはじめる「菊池ファン」づくり～

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(1) 計画タイトル

菊池市SDGs未来都市計画～自然を生かし、人をつなぎ、自立発展し続けるまち菊池～

(2) 2030年のあるべき姿

2030年をターゲットに、本市の活力を取り戻し、再興を果たすためには、ヒト・モノ・カネの好循環を生み出す必要がある。そこで、

- ① 新たな発見やアイデアが生まれるよう、様々なヒトが域内外からつどい、皆で意見や知恵を出し合える土壌が整っており、
- ② 新たな価値の創出や地域の活性化へとつながるよう、例えば、市民と来訪者、観光と農業、里山と都市といったように、集った人々や本市ならではの里山資源など、様々なヒトやモノをつなぐことで相乗効果が生まれる仕組みがあり、さらに、
- ③ これらのつどい・つなげるというアクションが一過性のものでなく、将来に向けて持続していく、「里山資源を生かし、ヒトやモノがつながり、自立発展し続けるまち」の実現を目指す。

(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



(4) 2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2023年（現状値）	2030年（目標値）	達成度 （%）
1	観光入込客数【8.9】	2021年3月 256.4 万人/年	2023年 275.3 万人/年	2030年 600 万人/年	6%
2	新規就農者数【9.4,9.b】	2020年3月 8 人	2023年 70 人（累計）	2030年 266 人（累計）	24%
3	新規創業者数【9.4,9.b】	2020年3月 6 人	2023年 41 人（累計）	2030年 109 人（累計）	34%
4	菊池市に住み続けたいと思う市民の割合【3.7,4.7】	2021年3月 69.2 %	2023年 データなし %	2030年 90 %	—
5	交通インフラに関する市民の満足度【11.7】	2021年3月 16.8 %	2023年 データなし %	2030年 70 %	—
6	市民一人あたりの温室効果ガスの排出量【7.1,7.a,15.1】	2017年3月 11.1 t-Co2/年	2023年 データなし t-Co2/年	2030年 6.66 t-Co2/年	—

(5) 「2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

●指標1：「観光入込客数」

目標値には届いていないが、新型コロナウイルスの5類への移行後、本市の里山資源を生かしたプロモーションやツアー造成等の取り組みにより、増加傾向にある。現在、産学官金連携で観光DMOの設立に取り組んでおり、地域一体となった観光振興の体制を整備することで観光客の増加を図り、地域経済の活性化と自立発展し続けるまちづくりを目指す。

●指標2：「新規就農者数」

農業次世代人材投資資金や新規農業就業奨励金の交付をはじめ、県・JA等と連携したサポートチームによる支援を行い、新規就農者の確保につなげた。

●指標3：「新規創業者数」

きくち起業塾や個別相談会を実施し、創業希望者の支援、スキルアップを図った。

●指標4：「菊池市に住み続けたいと思う市民の割合」 ●指標5：「交通インフラに関する市民の満足度」

総合計画策定時に調査を実施しているため、令和5年度のデータはないが、今年度（令和6年度）に調査を予定している。また、令和6年度より菊池市地域公共交通計画を策定するための準備を進めている。

●指標6：「市民一人あたりの温室効果ガスの排出量」

当該年度分の調査が数年後となるため、令和5年度のデータはない。なお、平成31年度の実績値（令和5年度算定）は9.9 t -CO2/人となっている。

推進体制（ステークホルダーとの連携）については、市が連携協定を締結している企業・大学等と市内関係団体との交流会を実施し、多様なステークホルダーの連携による地域活性化を図った。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2021年～2023年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2021年実績	2022年実績	2023年実績	2023年目標値	達成度(%)
1	①SDGsの普及啓発	市民のSDGsの認知度	2020年9月 15.7 %	2021年 データなし %	2022年 データなし %	2023年 データなし %	2023年 60 %	—
2	②観光資源や農産物等を活かした経済のエンジンづくり	観光入込客数	2021年3月 256.4 万人/年	2021年 242.6 万人/年	2022年 272.8 万人/年	2023年 275.3 万人/年	2023年 325.7 万人/年	27%
3	③住民のQOL向上につながる取組	住民幸福度	2021年3月 72.5 %	2021年 データなし %	2022年 データなし %	2023年 データなし %	2023年 80 %	—
4	④カーボンニュートラルの実現に向けた未来の里山づくり	市民一人あたりの温室効果ガスの排出量	2017年3月 11.1 t-Co2/年	2021年 データなし t-Co2/年	2022年 データなし t-Co2/年	2023年 データなし t-Co2/年	2023年 8.88 t-Co2/年	—

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

新たな地域活性化の手法やビジネスチャンスの発掘、SDGsの推進等につなげることを目的として、市が連携協定を締結している企業・大学等と市内関係団体との交流会を開催し、多様なステークホルダーの連携による地域活性化を図っている。また、SDGsの普及啓発について、熊本県のSDGs登録認証制度の周知等を通じて、企業等のSDGsの推進を図った。加えて、熊本連携中枢都市圏の事業として、「熊本連携中枢都市圏SDGsパートナー事業」を通じて、広域的なSDGsの普及啓発や自治体・企業との交流、シーズ・ニーズのマッチング等に取り組んだ。

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

●指標1：「市民のSDGsの認知度」
令和5年度のデータはないが、包括連携協定企業や市内関係団体と連携し、市内すべての小中学校で講座やワークショップを開催し、SDGsの普及啓発を図った。また、ESDの推進について、奈良教育大学のESDティーチャー認定プログラムを開催し、各学校から1名が受講し、ESDティーチャーの認定を受けた。そして、「2023みんなのSDGsフェスティバルきくち」を初開催し、各学校のSDGsの取組を市民に発表する機会を設け、児童生徒の意識向上を図った。

●指標3：「住民幸福度」
令和5年度のデータはないが、様々な地域や団体、組織、行政等が集い、知恵を出し合い、協働してつくりあげるかわまちづくりは、菊池高校生や大学生等の参画もあり、菊池川河川事務所により、河川環境整備の工事が完了した。また、健康ポイントアプリを通じて、日々の健康づくりをポイントに換算し、見える化することで市民主体の健康づくりにつなげた。

●指標4：「市民一人あたりの温室効果ガスの排出量」
熊本連携中枢都市圏の関係自治体と連携し、脱炭素化に向けた協議等を行った。また、ごみの排出量削減について、広報紙やアプリ等によるごみ分別の周知や資源ごみ（有価物）回収団体奨励金制度、生ごみ処理器等の購入及びごみステーションの整備に対する補助制度の周知等を行った。世帯あたりの年間のごみ排出量は、前年度と比べて25kg削減することができた。【再掲】当該年度分の調査が数年後となるため、令和5年度のデータはない。なお、平成31年度の実績値（令和5年度算定）は9.9 t -CO2/人となっている。

なお、指標1及び指標3については、総合計画策定時に調査を実施しているため、今年度調査を予定している。

(4) 有識者からの取組に対する評価

・データがある指標については、進捗が確認できる。一方、データがないものについては、そもそも指標と設定したこと自体適切でなかったように思われ、2期計画では見直しが必要と考える。

・データがないので成果は評価しにくい。各指標に課題は多々あると思われるが、記載されていない。庁内で進捗管理と自己評価はなされているのであろうか。

2. 特に注力する先導的取組

(1) 取組名

「さあ、行こう！」菊池「Saiko！」プロジェクト ～きくちまるごと快適オフィス化からはじめる「菊池ファン」づくり～

(2) 取組の概要

テレワーカーを新規ターゲットとし、快適なオフィス環境と菊池ならではのコト消費を提供することで誘引を図り、継続的に菊池ファンとして定着させ、地域資源との相互作用による好循環を創出することで、経済の再興、市民・来訪者の最幸、里山の彩興を果たすとともに、持続可能な魅力あふれる「Saiko！」のまちを実現する。

(3) 三側面ごとの取組の達成状況

取組名	取組内容	指標名	当初値	2021年実績	2022年実績	2023年実績	2023年目標値	達成度(%)
【経済】 ①-1 菊池ファン(関係人口)の拡大	①菊池ファンクラブ 観光協会と連携してプロモーションイベントへの出展や菊池のしらべ2023で入会促進活動を実施した。 ②南北朝・菊池一族歴史街道プロジェクト福岡県南の5自治体(久留米市、八女市、小郡市、うきは市、大刀洗町)と連携し、「南北朝・菊池一族歴史街道スタンプラリー」を実施した。約500名の参加があり、南北朝・菊池一族歴史ファンの獲得と協議会地域への誘客を進めた。	菊池ファンクラブ 会員数	2021年2月 500人	2021年 2,004人	2022年 3,738人	2023年 6,062人	2023年 6,000人	101%
【経済】 ①-2 里山を体験できるコト消費の提供	菊池の魅力発信事業の一環として、ターゲット層のニーズを踏まえた新しい視点で、地形と自然を活用しアウトドア体験やクラフトゲームを融合させたパッケージツアー「KIKUCHIクラフト・アドベンチャー」を企画・造成した。竜門ダム周辺及びドラゴンキャンプ場と水源交流館で、モニターツアーを3回実施した。好評だったため、今後は新たな実施場所を追加してツアーを造成・販売して誘客を推進する。グリーンツーリズムに関しては、水源交流館において、農業体験やキャンプ、フットバス体験会を開催した。また、サイクリングマップを使って事業の周知を図った。	観光入込客数	2021年3月 256.4万人	2021年 242.6万人	2022年 272.8万人	2023年 275.3万人	2023年 325.7万人	27%
【経済】 ①-3 里山テレワークの推進	コロナが5類に分類されて以降、全体的にはテレワークを継続実施する企業が減少している。なお、IT関連業種においては、継続してテレワークを実施しており、日本テレワーク協会への訪問や、連携協定を締結した企業を通じて、積極的に情報収集を行った。テレワーク施設等の整備については、市での整備は行わず、民間企業等による整備を推進した。							
【社会】 ②-1 健康促進型のコト消費の提供	東海大学農学部及び熊本県立大学環境共生学部の教授を講師として迎え、菊池市内圃場において生育状況の確認や講習会を実施。生産者が有識者から助言を受けることにより生産技術向上を図るとともに、加工業者にも参加してもらい相互交流することにより食材としての普及促進を図った。(参加者人数14名) 菊芋・ヤーコンともに高齢化等により作付面積や販売額が減少しているが、引き続き健康食材としての活用や普及促進を図る。なお、菊芋は熊本県立大学と菊池農業高校が連携し、季節間のイヌリン含有量変動を調査する取組も実施した。また、ヘルスツーリズム認証制度を得たプログラム「菊池深谷散策ツアー」を実施。「菊池の水」をテーマに、癒しと健康の切り口から、日常から離れて自然にふれながら癒しを感じ、心身の健康増進を図るプログラムを実施し、32名の参加があった。これから本格的に体験コンテンツを提供し、誘客促進を図っていく。	テレワーカーの満足度	2021年3月 未測定 %	2021年 データなし %	2022年 データなし %	2023年 67 %	2023年 80 %	84%
【社会】 ②-3 まちなかを周遊できる交通政策の推進	電動キックボードや電動アシスト自転車等、eモビリティの情報収集を行った。							
【社会】 ②-2 地域一体で築き上げる子どもたちの成長	5月と10月の2回にわたり、(株)九州野菜育苗センターから花苗の提供を受け、市内のボランティア団体、及び中学生の手により公共施設や公道沿いの植栽が行われた。	子どもたちの環境教育に対する満足度	2021年3月 未測定 %	2021年 データなし %	2022年 データなし %	2023年 データなし %	2023年 80 %	-

2. 特に注力する先導的取組

取組名	取組内容	指標名	当初値	2021年実績	2022年実績	2023年実績	2023年目標値	達成度(%)
【環境】 ③-1 里山資源の“彩興”による安心・安全・明るい景観づくり	2010年に西部電気工業(株)と協定を締結し、水源涵養や地球温暖化防止などに寄与する森林保全を目的に、植樹や下刈等を行った。引き続き、企業と連携した植樹活動を通じて、景観づくりや温室効果ガスの排出抑制を図る。また、11行政区へ87本の桜苗木を交付し、市内全域に桜の里を広げることができた。 環境保全型農業直接支払交付金の活用により、263haの農地で有機農業等の環境に配慮した農業生産活動が行われた。なお、菊池基準の要件となっているエコファーマー制度について、国の制度改正に伴い、菊池基準の要綱も改正し、推進を図った。 このほか、農林業と生活環境に被害を及ぼす有害鳥獣について、捕獲隊や生産者等と連携した被害防止対策を行った。引き続き、有害鳥獣対策を通じて、里山の景観保全を図る。	市民一人あたりの温室効果ガスの排出量	2017年3月 11.1 t-Co2/年	2021年 データなし t-Co2/年	2022年 データなし t-Co2/年	2023年 データなし t-Co2/年	2023年 8.88 t-Co2/年	-
【環境】 ③-2 里山共存型カーボンニュートラルの実現に向けた取組の推進	小水力発電の令和6年度設置に向け、農業用水路の管理委員会と地元関係者及び民間業者で協議会を開催した。また、環境課において、地球温暖化対策として太陽光発電設備の設置費用を支援することを目的とした住宅用太陽光発電設備設置費補助金交付要綱を制定（既存要綱の改正）した。 木質バイオマス発電については、未利用材の有効活用について、関係機関と協議を行った。 また、熊本連携中核都市圏として地域内の脱炭素化に向けた連携を図るべく協議を進めた。また、令和5年度に重点対策加速化事業への申請を国に行った。							

(4) 「三側面ごとの取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

- 指標1：「菊池ファンクラブ会員数」
観光協会と連携してプロモーションイベントへの参加や「菊池のしらべ2023」などの事業を実施したほか、福岡県南の5つの自治体と連携し、「南北朝・菊池一族歴史街道スタンプラリー」を実施した。菊池ファンクラブ会員数は当該年度の目標値を達成し、菊池ファン（関係人口）の拡大につながった。
- 指標2：「観光入込客数」【再掲】
里山を体験できるコト消費については、地形と自然を活かしたアウトドア体験やクラフトゲームを融合させたパッケージツアーを企画・造成し、モニターツアーを実施した。今後は新たな実施場所を追加して誘客を推進する。
里山テレワークの推進については、コロナが5類に分類されて以降、全体的にテレワークを継続実施する企業は減少しているが、日本テレワーク協会への訪問や、連携協定企業を通じて情報収集を行った。また、テレワーク施設等の整備については、民間企業等による整備を推進した。
- 指標3：「テレワーカーの満足度」
日本テレワーク協会への訪問や、連携協定を締結した企業を通じて、積極的に情報収集を行った。指標については、連携協定等を結んでいる民間のテレワーク施設の利用者へ満足度調査を実施。健康促進型のコト消費については、2022年に取得した第三者認証制度である「ヘルスツーリズム認証制度」を得たプログラム「菊池渓谷散策ツアー」を実施し、32名の参加があった。
- 指標4：「子どもたちの環境教育に対する満足度」
(株)九州野菜育苗センターから花苗の提供を受け、市内のボランティア団体と中学生が協力し、公共施設や公道沿いへ植栽を行った。指標については測定ができておらず、第2期計画で指標の見直しを行い記載しない。
- 指標5：「市民一人あたりの温室効果ガスの排出量」【再掲】
連携企業と協力し、水源涵養や地球温暖化防止などに寄与する森林保全を目的に、植樹や下刈等を行った。また、環境に配慮した有機農業の推進、有害鳥獣対策を通じて、豊かな自然環境・景観の保全等を図った。
指標については当該年度分の調査が数年後となるため、令和5年度のデータはない。なお、平成31年度の実績値（令和5年度に算定）は9.9t-CO2/年となっている。

2. 特に注力する先導的取組（三側面をつなぐ統合的取組）

(1) 三側面をつなぐ統合的取組名

「菊池ファン」獲得に向けたきくちまるごと快適オフィス化事業

(2) 三側面をつなぐ統合的取組の概要

菊池“Saiko！”プロジェクトの核となるまちづくりコンソーシアムを中心に、空き家・空き店舗等の未利用資源を活用したオフィスを整備し、テレワークに健康プログラムや里山体験等を組み合わせた新たな滞在型ワークプレイスを提供する。里山資源をまるごと活用した快適オフィスによる菊池ファン獲得で関係人口拡大につなげる。

- 菊池“Saiko！”プロジェクトの持続的エンジンとなる「まちづくりコンソーシアム」の設立
- 空き家・空き店舗等の未利用資源を活用したオフィスの整備
- テレワーク×健康プログラム×アウトドア×温泉×食（グルメ）といった新しい滞在型ワークプレイスの構築
- e-モビリティの導入促進

(3) 三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果

経済⇔環境	経済⇔社会	社会⇔環境
現時点において相乗効果やトレードオフの緩和等の成果にはつながっていない。引き続き、統合的取組を推進することで、相乗効果の創出につなげたい。	現時点において相乗効果やトレードオフの緩和等の成果にはつながっていない。引き続き、統合的取組を推進することで、相乗効果の創出につなげたい。	現時点において相乗効果やトレードオフの緩和等の成果にはつながっていない。引き続き、統合的取組を推進することで、相乗効果の創出につなげたい。

(4) 三側面をつなぐ統合的取組の達成状況

No	指標名	当初値	2021年実績	2022年実績	2023年実績	2023年目標値	達成度(%)
1	【経済→環境】 企業やNPO等との協働による植樹本数	2021年3月 16,750 本	2021年 18,883 本 (累計)	2022年 18,954 本 (累計)	2023年 19,641 本 (累計)	2023年 18,550 本 (累計)	161%
2	【環境→経済】 e-モビリティを活用した取組の創出数	2021年3月 未測定 件	2021年 データなし 件 (累計)	2022年 データなし 件 (累計)	2023年 データなし 件 (累計)	2023年 5 件 (累計)	—
3	【経済→社会】 空き家バンクを活用した市外からの移住者数	2020年3月 142 人	2021年 186 人 (累計)	2022年 218 人 (累計)	2023年 263 人 (累計)	2023年 200 人 (累計)	209%
4	【社会→経済】 健康プログラム参加者の宿泊日数	2021年3月 未測定 泊/年	2021年 データなし 泊/年	2022年 データなし 泊/年	2023年 データなし 泊/年	2023年 4,160 泊/年	—
5	【社会→環境】 来訪者による環境保全活動の参加者数	2021年3月 未測定 人	2021年 データなし 人 (累計)	2022年 データなし 人 (累計)	2023年 データなし 人 (累計)	2023年 1,000 人 (累計)	—
6	【環境→社会】 住民幸福度	2021年3月 72.5 %	2021年 データなし %	2022年 データなし %	2023年 データなし %	2023年 80 %	—

(5) 自律的好循環の形成に向けた取組状況

新たな地域活性化の手法やビジネスチャンスの発掘、SDGsの推進等につなげることを目的として、市が連携協定を締結している企業・大学等と市内関係団体との交流会を開催し、多様なステークホルダーの連携による地域活性化を図っている。また、SDGsの普及啓発について、熊本県のSDGs登録認証制度の周知等を通じて、企業等のSDGsの推進を図った。加えて、熊本連携中枢都市圏の事業として、「熊本連携中枢都市圏SDGsパートナー事業」を通じて、広域的なSDGsの普及啓発や自治体・企業との交流、シーズ・ニーズのマッチング等に取り組んだ。

(6) 「三側面をつなぐ統合的取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

- 菊池“Saiko！”プロジェクトの持続的エンジンとなる「まちづくりコンソーシアム」の設立について、コンソーシアムは設置していないが、上段で記載のとおり、連携企業・大学等と市内関係団体との交流会を通じた、多様なステークホルダーの連携や民間企業との連携によるテレワーク等の取組を推進している。
 - 空き家・空き店舗等の未利用資源を活用したオフィスの整備について、テレワーク施設等の整備については、民間企業等と連携し整備に係る情報共有を行った。
 - テレワーク×健康プログラム×アウトドア×温泉×食（グルメ）といった新しい滞在型ワークプレイスの構築については、官民連携によるテレワーク等の取組を推進するため情報共有を行った。
 - e-モビリティの導入促進について、電動キックボードや電動アシスト自転車等、eモビリティの情報収集を行った。
- 指標2：「e-モビリティを活用した取組の創出数」
令和5年度末時点で関連事業が開始できていないため、データはないものの、現在導入に向けて他自治体や事業者等と協議を行っている。第2期計画において引き続き取組を進めていく。
- 指標4：「健康プログラム参加者の宿泊日数」
市外からの参加者が増加傾向にあるが宿泊につながっているかは把握できていない。第2期計画において指標の見直しを行った。
- 指標5：「来訪者による環境保全活動の参加者数」
令和5年度末時点で関連事業が開始できていないため、データはない。来訪者（テレワーカー）を想定していたため、社会情勢の変化などからテレワーク自体が減少傾向にあるため、第2期計画からは指標の見直しを行った。
- 指標6：「住民幸福度」
今年度調査を実施する予定。

(7) 有識者からの取組に対する評価

- 「まちづくりコンソーシアム」の設立について、結局コンソーシアムは設置に至らなかった理由について、説明が求められる。
- テレワーカーの増大がモデル事業の核なので、テレワーカーの人数把握が必要（観光客と一部重複しても）。他はデータ（結果）がないので評価できない。推進体制の立て直しが必要と思われる。

熊本県菊池市 第1期SDGs未来都市計画：計画期間2021年～2023年

(1) 2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2023年	2030年（目標値）	達成度（%）	第2期計画（または独自計画）のKPIへの反映状況
1	観光入込客数【8.9】	2021年3月 256.4 万人/年	2023年 275.3 万人/年	2030年 600 万人/年	6%	目標達成度が低いため、第2期計画ではKPIを見直し、引き続き進捗を確認していく。
2	新規就農者数【9.4,9.b】	2020年3月 8 人	2023年 70 人（累計）	2030年 266 人（累計）	24%	2030年の目標に向けて順調に進捗しており、引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
3	新規創業者数【9.4,9.b】	2020年3月 6 人	2023年 41 人（累計）	2030年 109 人（累計）	34%	2030年の目標に向けて順調に進捗しており、引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
4	菊池市に住みたいと思う市民の割合【3.7,4.7】	2021年3月 69.2 %	2023年 データなし %	2030年 90 %	—	令和6年度調査予定のため進捗状況は不明だが、引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
5	交通インフラに関する市民の満足度【11.7】	2021年3月 16.8 %	2023年 データなし %	2030年 70 %	—	令和6年度調査予定のため進捗状況は不明だが、第2期計画ではKPIを変更した。
6	市民一人あたりの温室効果ガスの排出量【7.1,7.a,15.1】	2017年3月 11.1 t-Co2/年	2023年 データなし t-Co2/年	2030年 6.66 t-Co2/年	—	直近データが出ないため進捗状況は不明だが、引き続き第2期計画で進捗を確認していく。

(2) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2023年実績	2023年目標値	達成度（%）	第2期計画（または独自計画）のKPIへの反映状況
1	①SDGsの普及啓発	市民のSDGsの認知度	2020年9月 15.7 %	2023年 データなし %	2023年 60 %	—	令和6年度調査予定のため進捗状況は不明だが、引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
2	②観光資源や農産物等を活かした経済のエンジンづくり	観光入込客数	2021年3月 256.4 万人/年	2023年 275.3 万人/年	2023年 325.7 万人/年	27%	目標達成度が低いため、第2期計画ではKPIを見直し、引き続き進捗を確認していく。
3	③住民のQOL向上につながる取組	住民幸福度	2021年3月 72.5 %	2023年 データなし %	2023年 80 %	—	令和6年度調査予定のため進捗状況は不明だが、引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
4	④カーボンニュートラルの実現に向けた未来の里山づくり	市民一人あたりの温室効果ガスの排出量	2017年3月 11.1 t-Co2/年	2023年 データなし t-Co2/年	2023年 8.88 t-Co2/年	—	直近データが出ないため進捗状況は不明だが、引き続き第2期計画で進捗を確認していく。

(3) 三側面ごとの取組の達成状況（特に注力する先導的取組）

No	取組名	取組内容	指標名	当初値	2023年（実績）	2023年（目標値）	達成度（%）	第2期計画（または独自計画）のKPIへの反映状況
1	【経済】 ①-1 菊池ファン（関係人口）の拡大		菊池ファンクラブ会員数	2021年3月 500 人	2023年度 6062 人	2023年度 6,000 人	101%	目標が達成できており、KPIの目標値を見直し、引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
2	【経済】 ①-2 里山を体験できるコト消費の提供 ①-3 里山テレワークの推進		観光入込客数	2021年3月 256.4 万人/年	2023年度 275.3 万人/年	2023年度 326 万人/年	27%	目標達成度が低いため、第2期計画ではKPIの目標値を見直し、引き続き進捗を確認していく。
3	【社会】 ②-1 健康促進型のコト消費の提供 ②-3 まちなかを周遊できる交通政策の推進		テレワーカーの満足度	2021年 未測定 %	2023年 67 %	2023年 80 %	84%	目標達成に向け、引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
4	【社会】 ②-2 地域一体で築き上げる子どもたちの成長		子どもたちの環境教育に対する満足度	2021年 未測定 %	2023年 データなし %	2023年 80 %	—	第2期計画では指標の見直しを行い、記載しない。
5	【環境】 ③-1 里山資源の“彩興”による安心・安全・明るい景観づくり ③-2 里山共存型カーボンニュートラルの実現に向けた取組の推進		市民一人あたりの温室効果ガスの排出量	2017年3月 11.1 t-Co2/年	2023年 データなし t-Co2/年	2023年 8.88 t-Co2/年	—	直近データが出ないため進捗状況は不明だが、引き続き第2期計画で進捗を確認していく。

熊本県菊池市 第1期SDGs未来都市計画：計画期間2021年～2023年

(4) 三側面をつなぐ統合的取組の達成状況（特に注力する先導的取組）

No	指標名	当初値	2023年実績	2023年目標値	達成度(%)	第2期計画（または独自計画）のKPIへの反映状況
1	【経済→環境】 企業やNPO等との協働による植樹本数	2021年3月 16,750 本	2023年 19,641 本（累計）	2023年 18,550 本（累計）	161%	目標を大幅に達成したため、第2期計画ではKPIの目標値を見直し、引き続き取り組みを推進する。
2	【環境→経済】 e-モビリティを活用した取組の創出数	2021年3月 未測定 件	2023年 データなし 件（累計）	2023年 5 件（累計）	—	第2期計画では指標の見直しを行い、記載しない。
3	【経済→社会】 空き家バンクを活用した市外からの移住者数	2020年3月 142 人	2023年 263 人（累計）	2023年 200 人（累計）	209%	目標を大幅に達成したため、第2期計画ではKPIの目標値を見直し、引き続き取り組みを推進する。
4	【社会→経済】 健康プログラム参加者の宿泊日数	2021年3月 未測定 泊/年	2023年 データなし 泊/年	2023年 4,160 泊/年	—	第2期計画では指標の見直しを行い、引き続き取り組みを推進する。
5	【社会→環境】 来訪者による環境保全活動の参加者数	2021年3月 未測定 人	2023年 データなし 人（累計）	2023年 1,000 人（累計）	—	第2期計画では指標の見直しを行い、記載しない。
6	【環境→社会】 住民幸福度	2021年3月 72.5 %	2023年 データなし %	2023年 80 %	—	目標達成に向け、引き続き第2期計画で進捗を確認していく。

(5) 第1期SDGs未来都市計画の進捗評価結果を踏まえた総括

●特筆すべき事業内容、成果

(1) 指標1 観光入込客数

コロナ禍で思うような事業展開ができず数値目標には到達しなかったが、5類移行後は、本市の特性を活かしたツアー造成等の取り組みにより、市外からの誘客につながった。現在、産学官金連携で観光DMOの設立に取り組んでおり、地域一体となった観光振興の体制を整備することで観光客の増加を図り、更なる地域経済の活性化を目指す。

指標2 新規就農者数

農業次世代人材投資資金や新規農業就業奨励金の交付をはじめ、県・JA等と連携したサポートチームによる支援を行い、新規就農者の確保につながった。引き続き第2期計画で進捗を確認していく。

指標3 新規創業者数

きくち起業塾や個別相談会を実施し、創業希望者の支援、スキルアップを図った。2030年の目標へ向けて順調に進捗しており、引き続き第2期計画で進捗を確認していく。

指標4、指標5については令和6年度調査を予定している。また、交通インフラについては今年度菊池市地域公共交通計画の策定を進めている。指標6については、当該年度の調査が数年後となるため、計画期間3年間のデータはない。

(2) ①SDGsの普及啓発

市民向けワークショップや連携企業と協力しフェスティバルを開催したほか、市内団体や企業等へのセミナーを開催し、市民への普及啓発につながった。また、ESDの推進については、フェスティバル内で各学校のSDGsの取組を発表する機会を設け、児童生徒の意識向上を図った。また、ティーチャー認定プログラムを実施し、認定を受けた受講者が実践報告会を実施した。

指標1については令和6年度調査予定。

③住民のQOL向上につながる取組

市民協働で実施する、かわまち・もりまち・はなまちづくりプロジェクトにより市民のシビックプライドを醸成した。また、アプリを活用した健康ポイント事業を実施し、その景品として地元農産物等を提供することで、市民の健康増進と地産地消につながった。さらに、災害に強いまちづくりを進めるため市民参加型の防災訓練を実施し、市民の地域防災意識を高めた。また、防災士養成講座を開催し、防災士の育成をすることで防災活動に対する体制強化を図った。指標3については令和6年度調査予定。

④カーボンニュートラルの実現に向けた未来の里山づくり

熊本連携中枢都市圏において、脱炭素化に向けた連携を図るべく協議を進めた。また地球温暖化対策として、太陽光発電設備の設置費用を補助するための要綱を施行。また、家庭ごみにおいては、アプリ等を活用し適切な分別につながったほか、生ゴミ処理機購入時に補助を行い、ごみの減量化につながった。指標4については、当該年度の調査が数年後となるため、計画期間3年間のデータはないが、引き続き第2期計画において引き続き進捗を確認していく。

(3) 指標1 菊池ファンクラブ会員数

観光協会と連携してプロモーションイベントへの参加や「菊池のしらべ2023」などの事業を実施したほか、福岡県南の5つの自治体と連携し、「南北朝・菊池一族歴史街道スタンプラリー」を実施した。菊池ファンクラブ会員数は当該年度の目標値を達成し、菊池ファン（関係人口）の拡大につながった。

指標4 子どもたちの環境教育に対する満足度

(株)九州野菜育苗センターから花苗の提供を受け、市内のボランティア団体と中学生が協力し、公共施設や公道沿いへ植栽を行った。指標については測定ができておらず、第2期計画で指標の見直しを行い記載しない。

(4) 指標2 e-モビリティを活用した取組の創出数

令和5年度末時点で関連事業が開始できていないため、データはないものの、現在導入に向けて他自治体や事業者等と協議を行っている。第2期計画において引き続き導入に向けた取組を進めていくが、指標としては記載しない。

指標4健康プログラム参加者の宿泊日数

市外からの参加者が増加傾向にあるが宿泊につながっているかは把握できていない。第2期計画において指標の見直しを行った。

指標5来訪者による環境保全活動の参加者数

令和5年度末時点で関連事業が開始できていないため、データはない。来訪者（テレワーカー）を想定していたため、社会情勢の変化などからテレワーク自体が減少傾向にあるため、第2期計画からは指標の見直しを行い記載しない。

●課題

特に注力する先導的取組として、テレワーカーを新規ターゲットとしていたが、社会情勢の変化などからテレワーク自体が減少しており事業展開が困難となった。今後も、情勢等の変化を見ながら、官民連携によるテレワーク等の取組を推進するため、情報収集を行っていく。

●今後の展望

今後も各取組について、連携協定企業や大学、市内民間企業等の様々なステークホルダーと連携しながら、新たな地域活性化の手法やSDGsの推進を図り、第2期計画においても引き続き目標達成に向け取組みを加速していく。

(6) 有識者からの取組に対する評価

・当初計画に対し、実施できなかったもの、開始できなかったものなどもあり、第2期計画では、現状の冷静な分析や見通しを踏まえ、より現実的な計画と計測可能な指標の設定が行われることを期待する。